

彼方「かなた」

校長通信
H24.7.17
Vol.17

【いじめ撲滅！】

① 湖北中にいじめはないのか？

② もし起こったら、起こりそうなら、どうする？

③ 起こさないために、普段からやっておくことは？

七月九日（月）に葛南壮行会の後、学校評議員会議を開催しました。その中で話題の中心となったのが、「いじめ問題」です。座長の田口さんが資料提供と共に口火を切ってくださいました。

① について、「解消したものの、指導継続中のものがあります。しかし、まだ表面化していないものを考えれば、残念ながらもまだあると考えなければなりません。」

② について、「管理職（校長・教頭）は、先生方は、生徒は、保護者は、地域は、というようにそれぞれ立場でできることを考えて、働きかけていかなければなりません。」

③ について、「学校としては、『自主貢献』という学校教育目標を目指し、自主的に行動し、助け合える生徒を育成すること。自己有要感を高めるために学校でも家庭でも誉める（認める）ことを大切にすること。まだまだ対策は沢山あります。」

*先生は、学級の生徒全員の良さを三つずつ言えますか？（田口座長提案資料より）

*保護者は、自分の子どもの良さ、学級（担任）の良さを言えますか？

*生徒は、学級や部活の全員の良さを言えますか？

本校でも例年行っている「いじめアンケート」を六月末に実施し、先週、生徒指導主任の金屋先生から集計結果の報告がありました。一年生十六人、二年生六人、三年生四人、合計二十六人の生徒が、いじめの状況を記してくれました。（別紙参照）

いじめの定義がアンケートに書かれています。実際に周囲から言われたり、やられたりしている生徒にとっては、継続性など関係なく一回でも耐えられない思いがつのる場合もあります。いずれにしても二十六人の思いをクリアさせていかなければなりません。無記名アンケートなので該当する生徒が誰なのかはつきりしないところもありますが、そのままの状態にせず是非先生、家族、友達に相談して欲しいと思います。

また、記入すらできずに声も上げられずに黙って悩んでいる生徒がまだいるかもしれません。周囲の目で察知し、声をかけ、相談してくれることを願ってやみません。

いじめは、人権侵害です。絶対に許されません。四月に、通っているだけで楽しい「伝説の学校」を

つくりたい！というお話を全校生徒、保護者、地域の方々にさせていただきました。いじめがなくなるとは、楽しい学校には絶対になりません。少なくとも二十六人の声を無駄にせず、これを「いじめ撲滅」のためのチャンスに変えてこそその学校だと考えています。

（解決のための手立て）

○各学級担任が該当しそうな生徒に声をかけ、面接をします。

○生徒指導部が動きまわります。状況を確認し、該当生徒の指導、保護者との連携を行います。

○生徒会に働きかけ、撲滅キャンペーン等解決のための具体的な手立てを考え、実行します。

○道徳や学活の時間を活用し、人間関係づくりの学習を強化します。

「言って良い事、悪い事。言って良い時、悪い時。言って良い人、悪い人。」田中角栄さんが残した名言です。言葉は言霊です。力を持っています。相手を苦しめることも楽にすることもできます。相手を思う心、場の空気を読む力がないと、言葉は、思いがけず相手を傷つける武器になってしまうこともあります。いつも言葉を大切にしている生徒であって欲しいと願っています。

学校は、知識や技能の切り売りをする場所ではなく、「生きる知恵」、「生き抜く力」を学ぶ場所ではないと思っています。